



第15号

発行・編集 広報委員会
 〒520-1821 マキノ町沢1410
 TEL 27-1132
 令和5年5月吉日

『ごあいさつ』



高島市老人クラブ連合会
 会長 鈴木 庄十朗

令和4年度の役員改選にあたり、不肖私がまたもや引き続き「高島市老人クラブ連合会長」の役職をお引き受けることになりました。

社会情勢や高齢者自身の意識の変化もあり、単位クラブや会員数も激減するという、極めて厳しい時代背景の中にありまして、その責任の重さをひしひしと感じているところでございます。

また令和4～5年になりましたが、「新型コロナウイルス感染症」は次々と変異株が発生し、世界中に蔓延し、全世界で薬やワクチンの開発がなされ、あらゆる方面から対策が講じられておりますが、残念ながら、未だに収束の目途は立っておりません。しかし最近になり、ようやくマスクの着脱も個人の判断となり、感染症法上の位置づけが、5月8日より「第2類」から「第5類」に変更となりますが、一日も早く、以前のような安心出来る平穏な日々が訪れることを、心から念ずるところでございます。

会員のみなさまにおかれましても、自身のお体を十分ご自愛頂き、ご健康にて過ごせますよう、

ご祈念申し上げますところでございます。
 さて、そんな中、昨今の老人クラブ活動を巻き取り「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大とも相まって、極めて厳しいものがあり、特に会員数の減少に歯止めがかかれず、長年にわたり伝統的に維持されてきた「老人クラブ連合会」という組織の存続が危ぶまれ、大変憂慮すべき状況に陥っております。

しかし、この現象を止める策を色々と考慮しておりますもの、未だに見出すことは出来ませんが、引き続き皆さま方のお知恵を拝借しながら、私も微力ながら、その策が見いだせるよう努力致しますので、会員皆様におかれましても、倍旧のご指導とご支援を賜りますよう、偏にお願い申し上げます。

終わりにあたりまして、会員皆様のご健康での活躍、そして変わらぬ深いご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます、私からのご挨拶と致します。

最後に一言

人生百年時代と言いますが、私たちの年代はその最終版であります。

一日一日を大切に生きて有意義な人生を送りたいものです。

誰も自分一人では生きられません。仲間を大切にすることによって、自分も大切にされます。

これが老人クラブの原点です。『人生百年時代、生涯現役を目指して皆さんが頑張ります。老人クラブへのご加入をお待ちしております。』

令和5年度

高島市老人クラブ連合会

【役員・評議員名簿】

- 会長 鈴木 庄十朗 (安曇川支部長)
- 副会長 岸 本 勳 (朽木支部長)
- 理事 松 本文 男 (今津支部長)
- 〃 鎌 田 忠 夫 (今津支部長)
- 〃 清 水 信 太 郎 (朽木支部長)
- 〃 秋 永 安 次 (安曇川支部長)
- 〃 古 田 富 美 子 (安曇川支部長兼女性代表)
- 〃 山 本 紘 一 (高島支部長)
- 〃 金 田 啓 (高島支部長)
- 評議員 赤 崎 太 一 郎 (マキノ支部代表兼創造推進員)
- 〃 前 川 弥 嗣 (今津創造推進員)
- 〃 澤 田 龍 治 (朽木創造推進員)
- 〃 竹 若 孟 (安曇川創造推進員)
- 〃 山 本 徳 樹 (高島創造推進員)
- 事務局 吉 原 康 和 (高島市創造推進員)

高齢者の皆さん! 「老人クラブ」への入会を、お待ちしております!!

老人クラブへの入会は、六十歳以上の方ならいつでも、だれでもご入会頂けます。「新しい出会い」を見つけてみませんか!!

●地域の同世代の皆さんと、地域に役立つことをしてみませんか!

●老人クラブは、高齢者が自ら活力を持って、活躍出来る地域の集団です。

●仲間と一緒に活動し、毎日を生き生きと、心身ともに健康で暮らして行くことではありませんか!

●老人クラブでは、「健康づくり」「友愛・奉仕」「ふれあい・交流」等、その他さまざまな活動を実施しています。

各事務局連絡先

※お問い合わせは、次の老人クラブ連合会各支部までお気軽にご連絡下さい。

マキノ支部	(27) 1132	FAX (27) 1129
今津支部	(22) 5200	FAX (22) 9056
安曇川支部	(32) 1944	FAX (32) 1944
高島支部	(36) 8185	FAX (36) 8186
朽木支部	(38) 2630	FAX (38) 2951

主な年間行事等

- 高島市老人クラブ連合会理事会 5月
- 高島市老人クラブ連合会総会・研修会 6~7月
- 高島市老人クラブ連合会
グラウンドゴルフ大会 9~10月
- 第1ブロック グラウンドゴルフ大会 10~11月
大津市、高島市で輪番に担当

本年度の活動内容

- 滋賀県老人クラブ大会 11~12月
- 老ク連会員研修会 11月
- 会員研修旅行 11~12月
- 高島市長(行政担当課)との懇談会 年1回
- 高齢者相互支援活動研修会 2月
- 高島市老人クラブ連合会 事務所・長寿社会福祉センター
- 高島市老人クラブ連合会 理事会 3月

滋賀県老人クラブ大会が規模を縮小して開催される!!

昨年の11月16日(水) 栗東市の栗東芸術文化会館「さきら」において、第61回目となる滋賀県老人クラブ大会が、滋賀県、栗東市等の後援を得て、滋賀県知事(当日は代理)を来賓に迎え、県内各地からのクラブ員の参加のもと「のばそう!健康寿命、担おう!地域づくりを」のテーマで、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から規模を縮小し、午後からのみ開催されました。

当日は、功労のあつた方々や団体に対し、知事表彰、県老ク連会長表彰等が行われ、その後、日野音羽雲迎寺住職の久志則行氏(てんご堂雅楽さん)の落語と講話 演題「人生100年時代 笑いの効用で長生きしましょう」と題した講演を拝聴し、笑いが健康に大変良いことを教えて頂き、大笑いの中有意義な大会となりました。



コロナ禍の中、感染防止に配慮し市長杯グラウンドゴルフ大会等を開催!!

令和4年度においても、「新型コロナウイルス感染症」の蔓延は収束の兆しすらなく、屋内活動等は止むなく中止することが多い中、屋外活動の「市長杯グラウンドゴルフ大会」と「第一ブロックグラウンドゴルフ大会」は感染状況を見極めつつ、市長杯は昨年の10月3日(月)、また第一ブロックの大会は11月4日(金)にいずれもマキノピックランドグラウンドゴルフ場において、会員皆様のご理解とご協力を得て、コロナ禍での感染防止対策に配慮しつつ、規模を縮小して開催しました。

当日は、終了まで好天に恵まれ、自粛生活を一時忘れ、お互いに交流を深めると共に、日頃から磨いた技術を遺憾なく発揮できる有意義な大会となりました。

市長杯の大会成績は次のとおりです。

- 優勝: 山原 美さん(朽木)
- 準優勝: 杉本 勤さん(マキノ)
- 第3位: 柴原 忍さん(安曇川)
- 第4位: 山原 幸男さん(朽木)
- 第5位: 講殿 城明さん(安曇川)



第一ブロック大会の成績は次のとおりです。

(高島市老ク連の成績)

- 優勝: 和田 毅さん(高島)
- 準優勝: 山本 正昭さん(今津)
- 第3位: 角田 泰男さん(朽木)
- 第4位: 清水 信太郎さん(朽木)
- 第5位: 杉本 勤さん(マキノ)



コロナ禍の中、会員研修会を開催!!

昨年の11月28日(水)観光物産プラザにおいて、市内5支部約50名の参加のもと、令和4年度の「老ク連会員研修会」が、安曇川支部との共同事業で開催されました。

当日は、高島市長寿介護課長の池田正和さんも駆け付けて頂き、激励の言葉を頂くと共に、「出前講座」第一部として、高島市消費生活センターの職員さんより、横行する特殊詐欺の対策として「悪質業者の手口を知ろう!!あなたのだまされやすさをチェック!!」と題した講演を頂きました。

続いて「出前講座」第二部として、県老ク連「健康づくり推進員」の北川惣一氏をお迎えし、マジックショー(健康と笑い)を拝聴させて頂き、大いに笑わせて頂きました。

いづれの講座とも高齢者の日常生活には大変参考となる講座で、コロナ禍の生活の中、有意義な一時を過ごし、実のある研修会が実施出来ました。



マキノ支部

「老人クラブ」は、もう『無用の長物』と化したのか??

願いは一つ。今も頭から離れず、繰り返しであります。21世紀は高齢者の世紀と言われ、主役となるのは高齢者自身です。

そこで、健康づくりと相互支援の観点からその活動と役割が益々期待される所であり、しかし、少子高齢化社会の昨今、「高年齢者雇用安定法」による「65歳までの定年引上げ・継続雇用制度」導入

のため、典型的な「仕事人間」が社会に創り出される事となり、老人クラブは素より、地域社会への貢献までも眼中に無くなるように思われます。

このような社会構造の変化や人々の暮らしの変化が見込まれるからこそ地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人が分野を超えてつながることと住民ひとり一人の暮らしと生きがいと地域と共に創っていく活動、つまり国が掲げる「地域共生社会」の実現に向けての取り組みが喫緊の課題であると言えます。

幸い昨年4月に発足した「高島市住民自治協議会」が目指すのも10年先20年先を見据えて、住民に慣れた地域で暮らし続けるために地域の団体や住民による支え合いの仕組みづくりですが、この地域コミュニティの再生には、高齢者の豊かな経験と知識に加えて、活力ある働きが必要不可欠であることも周知のとおりと思います。

そこで、老人クラブの三大運動(健康)健康寿命を伸ばす活動(友愛)互いが助け合う活動(奉仕)地域を豊かにするボランティア等の活動の原点に立ち返り、今こそ、高齢者が一致団結して『住民自治協議会』が目指す安心・安全で暮らしやすい地域をつくる活動をクラブの目標に掲げ、その運営に参画する事によって、コミュニティと老人クラブの再構築が図れ、一石二鳥と考えます。この機会にこそ高齢者の再集結を図らなければ、老人クラブは早晚消滅するでしょう。

『住民自治協議会』と『老人クラブ』は、双方にとつて、正に「救世主」の関係にある。と願い続けて3年。このチャンス以外には老人クラブ再生の道はないものと思えてなりません。ことわざの通り「好転の芽が出て」くれば良いのですが閉塞感がつのるばかりで、ただただ両者が共倒れに終わらない事を願うばかりです。

今津支部

令和4年度の支部事業を顧みて!!

新型コロナウイルス感染症が確認されて丸3年が経ちました。そして、未だコロナの終息の道は遠い感じですが、この間における活動は、様々な制約を受け、常に感染予防対策を意識しながらの活動でした。このような状況の中においても、年度当初に計画した事業活動(グラウンドゴルフ大会)「第二成人式」「お楽しみ会」「友愛訪問」は計画通り実施することができました。

しかし、連合会加入の単位クラブの減少、それに伴い会員数が減少してきています。高齢化が更に速いスピードで進行していく中、会員相互の交流の場が少なくなっています。

そこで、当支部においては、連合会未加入の単位クラブに対し加入を呼びかけ、同世代の交流を促し、生きがいを感じながら生活できる機会や場をつくっていくことが大切であると考え、事業活動の幅を広げるなどの事業協働性を重んじ、広く積極的に社会参加に努めていきたいと話しています。

今後、市内各支部や県内の連合会等との交流、情報交換などにより、知恵を出せる機会を求めていくことが大切であると思っています。



朽木支部

老人クラブ事業の再検討時か!!

会員や単位老人クラブが年々減少しております。会員を増やすことだけを考えている訳ではありませんが、やはり減ると言うことは、老人クラブに対する注目や興味が無いのか、また、持つてもらえないことではないかと思えます。

入会したいと思われていないのではないかと心配しています。いわゆるメリットや必要を感じてもらえる事業は何か。もちろん、老人クラブのみで実施するグラウンドゴルフ大会などは、人気がありますし、各単老では、集会所の草刈りや集落のゴミ拾いなどそれぞれの地域に応じた事業を実施しています。

そのような中で朽木支部では、老人クラブのみでの活動では限界があると考えており、地域の他のグループなどと協力することとして、数年前から学校前での交通整理と声掛け運動を始めました。また、3年前から日赤奉仕団の方々と協力しあい、毎年小中学校、こども園周辺の草刈り草取りを実施しています。

いずれにしても、これからの老人クラブのことを考えると、①財源をどうするか。②組織をどう運営するか。③どのような事業を実施するか。が大事なことであり、特に多くの人に受け入れてもらえるために、どのような事業を実施するかにかかっているのではないのでしょうか。

安曇川支部

笑顔について!!

人と人が付き合う中で、様々ななかかわりがあります。一生を通じて深く関わる場合や、一期一会

のように刹那的なものまでいろいろです。出会いの数と同様に付き合い方もまたさまざまと言えるでしょう。この出会いに大きく作用するのが第一印象でしょう。初めて出会った時の『笑顔』に満ちた表情、屈託のない表情、また落ち着いた表情と色々です。人と初めて出会った時『笑顔』で接することが出来るでしょうか。私たちは、日々いろんな思いや感情の中で生きています。

自分の心の乱れが顔に出てしまい周りの人を不愉快にさせてしまう事は、少なからずあります。いけないことと反省しています。人は生まれて間もなく微笑みかけられるということがあります、これを新生児微笑と呼ばれています。社会的微笑とは違い、赤ちゃんが自分の意思で笑うのではなく自然に笑顔になる現象のことです。数多くの動物の中で『笑い』を持っているのは人間だけです。このように私たちが生まれて間もなくすることが『微笑みかける』という動作です。しかしながら生きていく中で、多くのことを体験することによって、ややもすると本来の、優しい心持を忘れてしまっているような気がします。日々の暮らしが『笑顔』と共にありたいものです。

今一度、「和顔愛語」「和顔布施」と言う言葉を思い起こし、多くの人と楽しくお付き合いしていきたいと思っております。

高島支部

グラウンドゴルフ大会 盛会裏に終了!!

7月26日(火) 梅雨明けの晴天の下に、高島(伊黒)の旧高島町立第三小学校グラウンドに於いて恒例の「高島支部グラウンドゴルフ大会」を開催しました。

当日は真夏の太陽が早朝からガンガンと容赦なく緑の天然芝生に照り付ける正に「酷暑」の一日

でした。(なんと最高気温は34度でした。)

それでも「昔青年・?」「昨今の熟年世代」は元気はつらつ、やる気まんまん、とてもイキイキです。なんと26名(新入会員1名を含む)もの皆さん方にご参加頂きました。

受付 8時・開会式 8時20分・競技開始 8時30分 12ホール×2ラウンドで競技を楽しみ、皆さん和やかなうちに、大いに親睦を図って頂きました。

成績発表も大きな桜の木の下の木陰で皆さんにお揃い頂き、優勝者(鹿ヶ瀬の金田啓さん)、入賞者飛賞、ブービー賞、ホールインワン賞の皆さん方を祝福させて頂き、無事に楽しい真夏の一時過でさせて頂きました。来年度もよろしくお願い致します。



社会情勢の著しい変化、少子高齢化、そしてロシア・ウクライナ戦争が起因する物価高、長引く疫病「新型コロナウイルス」の蔓延社会の中にあつて、住民意識や生活スタイルが大きく様変わりしています。

令和4・5年になりましても、「新型コロナウイルス感染症」は、願っても空しく、一向に収束の目途は立たず、長引く自粛生活、何時になったら以前の生活や活動が出来るようになるのでしょうか? 最近になり、感染症法上の分類が「第2類」から「第5類」に移行し、マスク着用も個人の判断とかが大丈夫でしょうか?

こんな世情の中にあつても、高齢者は自分自身で、若者に頼らない老後の生き方、過ごし方を模索しなければなりません。そして、地域でのお互いの助け合いや支え合い、仲間づくりが大変重要なこととす。

少子高齢化はますます進展し、若者は便利性の高い都会に流れ、著しい出生数の減少とも相まって、地方(田舎)は疲弊の一途を辿っています。高齢者の多い地方(田舎)での生活には、近所や仲間同士の助け合いと支えあいがなければ、生活が出来ないのではないのでしょうか!!

是非とも「老人クラブ」にご入会頂き、残された人生、共に助け合いながら、過ぎ去った昔を語り合いながら、楽しく余生を送るうちはありませんか!! (事務局)